

過疎化が進む駒ヶ根市中沢地区の魅力を見つける計画の一環で、江戸川大社会学部（千葉県流山市）の鈴木輝隆教授（60）と学生ら計24人が10日、同地区を訪れた。一行は13日まで3泊4日の日程で、住民有志19人でつくる「中沢地域づくり委員会」と共同で地域の農産物や景色、歴史などを調査。同委員会は、地域の強みを生かし、弱みを克服するきっかけとして調査結果を活用する。

## 過疎進む駒ヶ根の中山間部

初日は地区公民館で説明会を開いた。市職員は、地区人口が1945（昭和20）年の約6500人から現在は半減し、空き家の増加や山林荒廃に悩まされていると説明。鈴木教授はあいさつで「なぜ若者が農山村を去るのか、当人の気持ちになって調査を」と学生らに求めた。

## 住民有志 地域づくりに活用へ

一行は地区集会所に寝泊まりし、公民館を拠点に活動。調査対象は「人材・特技・物語」「商品づくり・産業」など7分野にわたる。24人は4日間のうち2日間、分担して共同調査は「中沢彩構築」と名付けた計画の一つ。中沢地域づくり委員会は今回の調査と並行し、若者定住に向けた住宅団地造成の候補地探しや空き家対策のための調査にも取り組んでいる。



今後の日程について打ち合わせをする鈴木教授（右から3人目）と学生ら

# 「中沢」の魅力学生と探る



駒ヶ根市中沢に調査に入った学生たち

江戸川大学（千葉県）社会学部・鈴木輝隆教授のゼミ生らが10日から4日間、駒ヶ根市中沢区でフィールドワークを行い、地域活性化の方法を探る「中沢地区魅力発見調査」を始めた。学生をはじめ大学院生、マーケティングの専門家、デザイナーなども加わり、総勢23人が区内を巡って住民へのヒアリングなどを実施する。最終日の13日には報告会を開く。  
（前田智威）

は、活動拠点となる中沢公民館で今後の調査方法などを確認した。学生たちは区内の集会施設に寝泊まりし、11、12の2日間で農業や伝統文化、産業などの分野で活躍する地域住民約30人から話を聴く。景観のスケッチや文化財の視察にも出かける。13日午前10時半から同公民館で報告会を開く計画だ。

鈴木教授は「山村では若い人が姿を消していくので、悩みを若い人と共有したことがない。地域の人の励みになるような形で課題を共有して、乗り越えていけるような形で達成感があれば」と目標を述べ、「当事者意識を持って取り組み、自分の成長を確認できるように」と学生たちに呼び掛けた。学生たちからは「この1回だけで終わらず、継続する事業になるといい」と指摘する意欲的な声も挙がっていた。

# 若い視点で魅力発見

## 江戸川大の 駒ヶ根市中沢を調査

江戸川大の 学生ら23人

### きょうの紙面



江戸川大学生らが駒ヶ根市中沢区でフィールドワーク。

### 中沢区でフィールドワーク

- ① 富士山を花壇に
- ② 生き物に感謝を
- ③ みのわ美術展始まる
- ④ 来年のカレンダー製作
- ⑤ マレットで交流
- ⑥ 不登校対策で検討委
- ⑦ 市況、空席情報
- ⑧ 県内株式
- ⑨ 衛星・ラジオ